

遭難対策訓練／ビーコン講習会報告

①机上講習

日 時 平成 21 年 1 月 21 日（水） 19：00～21：00

場 所 シーノ大宮 10F 多目的ホール

講 師 埼玉県山岳連盟遭難対策部長 瀬藤 武氏（浦和溪稜山岳会）

参加人員 事前申込 26 名 当日申込 9 名 合計 36 名

内 容 はじめに、ビーコンの基本特性の説明から入り、デジタル・アナログ等いろいろな機種の特徴およびそれぞれの操作方法を講義した。

その後、会場の後方の広い空間を利用して、できるだけ実際に即して捜索シミュレーションを行った。

まず、ビーコン 1 台をのみ送信状態にして中央に置き、周りに受講者を集めた。そして、各人が持ち寄ったビーコンを受信状態とし、受信者の立っている位置から送信機までの方向・距離等を各人それぞれの機種で確認した。

次に、受講者を AB 2 班に分け、まず A 班ビーコン持参者を室外に出し、待機とし、B 班が室内で数台を送信状態にセットし、室内何箇所かに隠した。そのうえで、室外のビーコンを受信状態にして、室内に呼び入れ、捜索をしてもらった。

当初、機種によって操作方法が全く違うことや、受講者のなかには取扱の不慣れな者もあり、受信者側の送信と受信の切り替えがうまく行かず、混乱したが、交互に 2～3 度繰り返すうちに、うまく捜索できるようになった。

最後に、25 日の現地実習の内容を説明して解散した。

②現地実習

日 時 平成 21 年 1 月 25 日（日）9：00～14：00

場 所 谷川岳登山指導センター周辺

講 師 埼玉県山岳連盟遭難対策部長 瀬藤 武氏（浦和溪稜山岳会）

参加人員 22 名

内 容 各人身支度を整えたうえで 9：00 に現地に集合。出席をとってから受講者を名簿順にランダムに、5～6 人ずつ、A・B・C・D 4 班に班分けをし、センター前で記念写真撮影、その後 100m ほど南の雪の斜面に移動した。

最初に、全員が集まれる安定した沢筋の斜面を選んで、全員で踏み均し、そ

ここで実習の方法の説明に入った。

まず、A班とB班を南斜面チーム、C班とD班を北斜面チームとし、沢筋を挟んで、50～100m離れた場所でそれぞれ実習エリアを作り、簡単に搜索ができないようにそれぞれのエリア全面を踏み荒らす。そのうえで、両チームとも、隠す班と搜索する班に別れ、交互に搜索を行う。時間は、21日の机上講習で説明した通り、搜索開始から埋没箇所特定まで5分以内、ゾンデ・掘り出し・救出まで15分以内。送信ビーコンはザックに隠し、最初は埋める箇所は1箇所のみとする。以上のような設定である。

10:00 両斜面に分かれて、それぞれ演習を開始した。

交互に2度ずつおこなった。埋める作業と掘り出す作業は予想以上に疲れたが、皆で頑ばり、何とか概ね制限時間内で収まった。

休憩食事を挟んで、12:00に再び全員集合。

今度は、これまでの成果を踏まえ、さらに大掛かりな設定とした。A・B班とC・D班を合併させ、それぞれ10～12人編成の南斜面チームと北斜面チームの2チームとし、交互に搜索を行うというものである。送信ビーコンの数は2～4個散らばって埋めておく。ただし、いくつ埋まっているかわからない、複数埋没とだけ決めておく。また、搜索の効率化・迅速化を図るため、また搜索班はリーダー1名を選出したうえで、役割分担を、見張り1名・ビーコン携帯の搜索役3～4名・ゾンデスコープ形態の掘り出し役4～5名とする。すべて掘り当てたら、最後に埋没者がもういないかの確認をしてから終了宣言をする。制限時間は前回同様15分以内とする。以上のような設定である。

実際に交互に1回ずつ行ったが、反省点が多々あった。午前中の演習では1個しか埋まっていなかったのが、易しかったが、今回は複数、それもいくつあるかわからない状態なので、とにかく時間がかかった。また、人数が多いのでバラバラに行動すると、いたずらに混乱するだけということもわかった。リーダーの明確のもと全員が統一のとれた行動をとれるかがポイントのようである。また、搜索役は1列になって上から下へ、または下から上へ、搜索方向を決めて行うほうがよいようだ。また、1人の埋没箇所のおおよその特定ができれば、そこはもうゾンデ・掘り出し役に任せて、搜索役は次々に2人目、3人目の搜索に向かう、これが一番無駄がないことがわかった。

2:00 演習終了。登山指導センター前に戻って解散した。

